

おむすびシート

～市民のみなさまとおのりで健をむすぶおむすびシート～

市民のみなさまの声を!! つなぎます

お気軽にFAXください

FAX 022-702-3967

●おこまりのこと(具体的に書いていただけますか)

●市議会について伺います ※いずれかに○をつけてください

- | | | | |
|---|-------------------|-------------------------------|---------------|
| 1. 市議会に関心がありますか | YES NO | 8. 市議会だよりを読んでみますか | YES NO |
| 2. 現在の市議会をどの様に評価しますか | 評価しない 評価しない わからない | 9. 市議会だより以外で議会に関する情報収集をしていますか | YES NO |
| 3. 市議会議員に自分の意見や要望を伝えていますか | YES NO | 10. 市議会ではどのような改革が必要だと思いますか | |
| 4. あなたの意見や市民の声を市議会に反映されていると思いますか | YES NO | ・議会の運営機能の向上 | ・議員定数の削減 |
| 5. 市政等について意見や要望がある場合に、請願や陳情を市議会に提出できることを知っていますか | YES NO | ・報酬、政務活動費の見直し | ・市民が傍聴しやすしい議会 |
| 6. 市議会の会議を傍聴したことがありますか | YES NO | ・市民の声を反映できる懇親会や意向調査を行う | |
| 7. 市議会を夜間や休日に開催すれば傍聴しますか | YES NO | ・市議会ホームページの充実など | ・情報発信力の強化 |
11. 市議会に何を期待しますか。自由にお書きください
- []

お名前

TEL
FAX
MAIL

ご住所



仙台市議会 倉雲の会
小野寺健 事務所

至八乙女

〒981-3122

仙台市泉区加茂 1-47-2-202

FAX 022-702-3967

E-mail: onoken0329@yahoo.co.jp

- ヤマザワ様
- マツトキキヨシ様
- 七十七銀行様
- 北郷沢様
- みおくり野宅加茂様

● ラーメン店

● パン店

オフィス加茂 [2F]

仙台市議会 令和元年 第4回 定例会号

小野寺健、第4回定例会において一般質問いたしました。質問項目と当局から引き出した答弁を掲載させていただきますので、ご一読ください。

●オウル市との産業振興協力協定の更新について

経済のグローバル化の進展により都市間競争がさらに激しくなる中で、海外の先進的な取り組みや知見を取り入れ、投資を呼び込むとともに、地元企業が海外へ市場展開をしていくこと、これがますます重要になるものと考えている。

本市では、オウル市との産業振興の協力協定に基づいて、企業のビジネスマッチングやジェット口とも連携した対日投資セミナーの開催、また、防災関連サービスの開発を支援してきていて、本協定を契機として、フィンランドの大手通信企業でありますノキア社との連携により、沿岸部でのドローンを活用した世界初の津波避難広報システムの実用化に向けて取り組んでいるところです。

医療、ヘルスケアの分野では、県内企業がオウル市内の研究施設で製品の実証実験を実施しているほか、東北大学における医療連携や、また学生の交換留学など、学術機関の交流も活発に行われているところだ。

先般、オウル市長にもお越しいただいて、協定を更新しました。スタートアップの支援も加えて連携を強めていくことを確認しながら、両地域の産業振興に向けた取り組みをさらに加速をし、今後の五年間で確実な成果に結びつけ、地域経済の成長を図ってまいります。

●奨学金返還支援事業について

本事業は、多くの優秀な若者に仙台で活躍してほしい、また、地元企業の成長を支える人材となっていたいただきたいという思いから、地元企業とともに地域が一体となって取り

声をつなく 人と人をつなく 地域をつなく

仙台市議会議員 (泉区) おのりで健

組んでいるものです。企業の皆様方からは、この制度のおかげで学生を採用することができた、地元就職を考える学生と地元中小企業のマッチングのために継続してほしいという声も伺っています。

新年度の採用に向けては、学生の就職活動が続いているところとして、引き続き、本制度を活用していただけたよう案内をするとともに、今年度の利用実績や地元企業の人材確保の状況、経済団体や大学の就職支援担当者などから御意見をいただいて、それを踏まえ効果を検証し、多くの学生や企業の皆様に御利用いただけたよう、しっかりと取り組んでまいります。(郡市長答弁)

●郊外住宅団地の活性化に向けた取り組みについて

住宅団地の課題解決にあたっては、まず地域の声に耳を傾け、実情を把握しつつ、地域の方々の主体的取り組みを促し、行政がそれを支援していくことが重要であると考えています。

小野寺議員にお示しいただきました六つの支援策については、例えば乗り合いタクシーなど、本市においても既に取り組んでいる事例もございますが、他都市での実施事例を調査、検証しながら、そのあり方について検討してまいります。

今後のまちづくりに向けて対応にあたっては、地域の実情を把握している各区役所、総合支所と国の施策の最新情報や関係団体とのネットワークを有する本庁各局が緊密に連携し、施策を推進していくことが不可欠です。これまでも、郊外住宅団地は開発時期により居住世帯の年齢構成や立地環境などが異なり、抱える課題が一律でないため、各団地の実情に応じて各局区が連携して取り組みを推進してきていますが引き続き、組織横断的な連携を強めながら、地域とともに郊外住宅団地のまちづくりを進めてまいります。(高橋副市長答弁)

おむすびシートとともにこれからもみなさんの想いと市政をしっかりとつなごう

●ふるさと支援担当の事業に関して

ふるさと支援担当は、地域の特性を踏まえ多様化した地域課題に対応するために、各区役所、総合支所に平成二十九年度から配置したものです。

この三年間には、六郷東部地区での東日本大震災で被災した東六郷小学校跡地を活用したコミュニティ広場整備、荒巻包括ケアシステムモデル事業をはじめ、12のふるさと底力向上プロジェクトなどに取り組んできました。

これらの事業は、いずれも地域の皆様とともに丁寧に意見の集約を図りながら進めてきたところであり、実施を通して多様な主体間の連携や取り組み意欲の向上などの効果があったものと評価しており、また一方で、事業を立ち上げた後に地域において継続的に活動していくための仕組みづくりなどの課題はあるものと認識しています。

令和元年度、各区にまちづくり推進部を新設し、区役所の課題解決やコーディネート機能を強化しております。引き続き、区役所、総合支所のまちづくり推進部門のあり方について、ふるさと支援担当を含め、より有効に機能できる体制となるよう検討してまいります。(高橋副市長答弁)

●食品ロスについて

環境局では、これまで食品廃棄物の削減の観点から、食材を無駄なく利用するためのレシピ投稿サイトの開設やフードドライブなどの食品ロス削減に取り組んできました。

一方で、食品ロスの対策には、食品の生産から流通、販売などの事業活動や、消費、食育といった市民生活など、さまざまな場面での取り組みが重要であることから、本市においてもこれらの関連する部局との連携が必要と認識しています。

現在、国において食品ロス削減推進法に基づく基本方針の策定が進められており、本市の食品ロス削減推進計画は、今後示される国の方針を踏まえ、関連する部局とも連携しながら具体的な検討を進めることとなりますが、食品ロス削減は本市のごみ減量に向けた重要なテーマであることから、来年度改定を予定している一般廃棄物処理基本計画にも位置づけ、取り組み、取り組んでまいります。(環境局長答弁)

●企業誘致の認識について

本市は多くの方から働きやすい住みよい都市として評価されていますが、大学卒業生の中には、職種等の条件が合わずに首都圏で就職するケースもあると認識しています。

一方で、首都圏における人材不足等から地方拠点を設置を検討する企業が多く、豊富な若手人材が集まる本市への関心が寄せられています。

これまでも立地した企業の生の声も発信し本市の魅力伝えてきたところですが、今後、若者やUターン人材が地元で活躍できるよう、せんだい都心再構築プロジェクトや次世代放射光施設の立地、これらを好機と捉え、本社機能、研究開発拠点、ICT関連企業等の誘致に取り組んでまいります。(経済局長答弁)

●奨学金返還支援事業の現況と制度の見直しについて

令和元年10月より対象となる学生の受け付けを開始し、現在、48名の応募があり、企業の認定は83社となっています。企業の中には予定している採用に至っていないところもあり、合同企業説明会に優先して参加していただくほか、就職がまだ決まっていない学生に向け認定企業の周知を図るなど、さらなる学生及び企業の増加に向け取り組んでまいります。

本事業につきましても、企業、学生、地域にとつてメリットのある制度との声も伺っているところですが、今後、認定企業からのヒアリング等により課題の洗い出しを行い、よりよい事業のあり方について検討してまいります。(経済局長答弁)

●郊外住宅団地に関する取り組みについて

郊外住宅団地の抱える課題は多岐にわたりますことから、関係する部局が連携して取り組みを進めてきました。

その主なものとしては、仙台市郊外住宅地・西部地区まちづくりプロジェクトによる地域の自発的な取り組みへの支援、協働まちづくり推進助成事業やまちづくり支援専門家派遣事業による地域団体等への課題解決に向けた助成や助言、市営住宅再整備事業による生活利便施設等の誘導、既存住宅流通促進事業による空き家の未然防止と住みかえの促進、地域交通スタート支援事業による地域の移動手段の確保などが挙げられます。

これらの事業に加え、福祉や子育て、教育など各分野にわたり、各局が密接に連携、協力しながら、それぞれの回地の実情に応じた取り組みを推進してきたところです。(都市整備局長答弁)

●青葉区におけるイベント開催時の仮設営業に対する指導について

営業許可にあたっては、食品衛生法に基づいて、食品の調理方法、食品の保存方法など食中毒を防止するための衛生指導を行っているところです。

食品ロスの削減にあたっては、関係事業者と連携した取り組みが重要であることから、区民まつりなど区がかかわるイベントをはじめ、各種イベントの際の仮設営業許可や

公園の使用許可などの機会も活用し、関係部局とも連携しながら事業者の皆様への啓発等を行ってまいります。(青葉区長答弁)

●泉区におけるふるさと支援担当の取り組み状況について

泉区では、泉中央地区活性化、郊外居住地区の課題対応及び泉西部地区活性化の三つをふるさと底力向上プロジェクトとして取り組んでいます。

泉中央地区につきましては、泉中央駅前のおへそひろばを活用し、新たな取り組みとしていずみハロウィンを昨年度から実施するなど、にぎわいの創出に努めています。郊外居住地区については、町内会や地域包括支援センターへのヒアリングにより、地域の現状や課題の把握に努めるとともに、見守りや居場所づくりなどを行っている団体の活動をまとめた事例集を作成し、地区社協と連携して、地域の福祉活動団体の交流会において情報提供を行うなどの取り組みを進めてきました。また、泉西部地区については、泉かむりの里観光協会と連携し、泉ヶ岳に代表される豊かな自然や歴史、文化などの地域資源を国内外にSNSで情報発信し、観光振興に努めているほか、今後のまちづくりについて検討する懇談会等を立ち上げ、住民の皆様とともに地域活性化に取り組んでいます。

引き続き、これら三つの取り組みを中心に、現場に足を運び、地域の声に耳を傾けながら、地域力の向上に努めてまいります。(泉区長答弁)

プロフィール

1972(昭和47)年3月29日 仙台市に生まれる。AB型。47歳。

■学歴

泉市立加茂小学校(5期生)卒業

泉市立加茂中学校(6期生)卒業

仙台高等学校(42期生)卒業

大阪芸術大学芸術学部(学士)卒業

宮城大学大学院事業構想学研究所(修士)修了

東北大学大学院工学研究科博士後期課程退学

■職歴

株式会社藤崎に入社し社会人生活をスタート。

会社役員、NPO法人理事を経て仙台市議会議員(平成19年初当選、平成23年・平成27年・令和元年再選)。

■家族

父(元県職員)・母(主婦)・妹(会社員)(加茂地区在住)

妻(公務員)・長女(小学3年生)・長男(小学1年生)

(泉パークタウン在住)

愛する仙台のため日々頑張ります。これからはもう少しお願いたします。

